

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100144		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム いしなり		
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動3291番地1		
自己評価作成日	令和 6年 8月25日	評価結果市町村受理日	令和7年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和6年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地条件であり集落の中にあり地域への密着を意識し自治会にも参加し地区の行事にも参加しやすい。また子供クラブとの交流会で納涼祭は毎年クラブ会長様より連絡があり今年も12名の参加で納涼祭での交流が根付いてきた。
事業所企画の防災訓練やクリーンデーへの参加も地域密着として根付いている。
地域の方々より野菜を頂いたり、地区のお祭り「もぐらたたき」の訪問などもある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道に隣接し交通量も多いが、ホーム内には騒音は聞こえず静かな環境である。また、周辺は自然豊かな環境で民家が点在し、車の出入りが少ないため安全に散歩ができる。ホームは、地元の木材を使用した木のぬくもりを感じる建物で、敷地内では草花を育ている。老人クラブや子供クラブとの交流、近所の方が差し入れに来るなど地域との繋がりが深い。近所には障害者作業所があり、防災訓練に参加してもらう等の交流もある。法人内事業所合同での行事や勉強会が多く、法人としての組織的な支援と、ホームとしての個別支援の視点とで、両方の良さを活かした体制を作られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスを踏まえた理念を作り介護の基本とし管理者と職員はその理念を共有して朝礼時にはゆっくりと噛みしめながら唱和している。揃っての唱和を心がけている。	リビングに理念を掲示している。相手に揃える気持ちが、入居者へ寄り添う気持ちに通じると言う意識で、ミーティング時にスタッフ全員で唱和している。管理者、職員ともに、理念の共有の意識を高め、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会にも加入し地区の総会、クリーンデイ、敬老会に参加、納涼祭として地区の子供クラブの皆様との交流も毎年、誘って頂き事業所で開催している。	敬老会や美化活動等町の行事に入居者が参加したり、ホーム主催の納涼祭に地域の方を招待している。子供クラブとの交流もあり、長年に渡り地域との交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は地域に呼びかけふれあい祭りや防災訓練など参加して頂いている。都度、利用者様との関わりを作り馴染みのある関係を築いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の会議を開催し、事業所の実態課題の報告を行ない、指導、助言を頂き真摯に受け止め業務改善に生かしている。	写真付きの事前資料や、会議での意見をまとめた報告書が作成されている。家族や地域代表、地域包括支援センター、理事長も参加し、意見交換や交流の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との交流を行ない地域ケア会議に参加したり行政の企画する研修にも参加しているふれあい祭りには町長様、議長様に参加頂き連携を持ち馴染みになっている	行政主催の研修や会議には積極的に参加し、地域包括支援センターとも相談しやすい関係ができている。法人主催の行事に町長や議長も参加され、法人としての連携づくりもできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関など施錠せず見守りの強化を図り帰宅願望など抑制せず寄り添っている身体拘束についてはカンファ時、全体勉強会代表者会議での議事録にて周知、共有している	玄関や居室の施錠はなく、事務所はリビングの一角にあり、壁がないため見守りしやすい構造である。外部研修、法人やホームでの勉強会が定期的であり、身体拘束に関する学習は身体拘束適正化委員会として記録も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待法に基づいて全体勉強会、カンファ、代表第三者委員会での知識を共有し認識している。また入浴時など身体のアザなどに気配りを持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は希望により研修会に参加し、成年後見制度、日常生活支援事業について学び、家族、関係者と話し合いを持ち、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は入居時に利用契約書、重要事項説明書について説明を行なっている疑問点、不安を含めて理解、納得を得て押印して頂いている、質問等あれば随時回答している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事参加時に話しやすい環境を作り要望があれば全員に共有している。運営推進会議では家族も参加され意見の反映し情報共有を図っている。	面会時や、家族会、アンケートにて意向を聞く機会がある。入居者とは日頃の会話や表情から意向を汲み取るように気を付けている。要望があれば、ホーム内や法人全体で協議している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の言いやすい雰囲気作りに勤め月1回のカンファにて一人ひとりに意見を聞く時間もあり年2回の人事考課では施設トップとの相談や悩み、意見を傾聴し管理者に指導方針を助言	ミーティングでの意見や個別相談があれば、ホーム内または法人全体で協議している。協議の結果、ゴミ捨て場を敷地内にした事で、移動時間が減り、入居者と関わる時間が増える効果も出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に合わせ行事やミニ講習の講師になって頂いたりやりがいや向上心を持って頂いている、労働時間は極力時間内での作業をお願いしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修募集を紹介したり、月1回の全体勉強会では必要な技術と知識の講習会を行ない、トレーニングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での同業者との交流で他事業所の取り組みの状況など報告書にて共有し質の向上に取り組んでいる、地域ケア会議での研修も参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を導入する段階で本人、ご家族様より、要望や不安事を傾聴し職員介護支援専門者で支援を考察し家庭的な雰囲気や安心して頂ける関係作りに努めている。毎日の、ミニカンファにて問題など調整して共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前にご本人様、ご家族様、介護支援専門員、管理者で話し合いの場をもち、施設の理念、方針を説明する。入所される前に支援方法を説明し安心して頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様、介護支援専門員、管理者が話し合いを持ち、必要とされる支援を見極め、全員で支援を共有し、サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に日常生活において教えて頂く事もあり、一緒に料理、掃除、洗濯物たたみ手伝いなどしていただく。時に、レストラン、喫茶店にて食事、お茶を楽しんで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	盆、正月の帰省時に介護を必要とされる方には送り迎えを行い帰省出来る様にしている。ご家族様も一緒喫茶店にて過ごせる外出支援も行なっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパーに買い物、レストラン、喫茶店へ行っただき支援を行なっている。デイサービスの催しにも参加している。人と場所との関係が途切れないようにしている。	友人、知人の面会も受け入れている。希望があれば、自宅へのお盆の仏壇参り付き添いや、冠婚葬祭の送迎を対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人、お一人の性格や相性の把握に努め、食事の際や余暇の時間に座って頂く位置を考慮しながら穏やかに過ごされる環境を作っている。家事やレクの際会話を楽しまれるような位置関係に留意しながら、支えあうような関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様のご家族様が気軽に立ち寄って近況を伝えて下さったり悩みを相談しにみえたりと良好な関係が築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	健康的な理由や距離的に難しく面会に来れないご家族様もおられ、利用者様の寂しさや想いを共有し気分転換出来るような、レクリエーションや行事を計画し楽しんで頂いている。	ゆっくりと話しかけ、入居者との会話や表情から意向を汲み取るようにしている。幼少期に過ごした地域へドライブしたり、希望があれば飲酒も可能である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様との会話の中で体験してこられたお仕事や生活面の把握に努めている。入所される前に利用されていたサービスの内容や経緯などを日常の会話を通じて把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の気持ちに寄り添い、個々の想いや身体状況を共有する事で異常があれば申し送りやミニカンファを通じて情報の共有が出来るように現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時だけでなく、入所された後も定期的にご家族様やご家族様の希望や意見を伺う機会を作り、その際に得られた情報の共有と現状のモニタリング表を元に介護計画を作成している。	ケアプランをより具体化したケア計画があり、毎日チェックしている。3ヶ月毎に介護計画担当会議を開催し、家族や介護スタッフの意見を取り入れ、評価や再計画を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活されている日常の様子を観察し、異常や気づきがあればケース記録やケアプランの気付きに記入している。介護計画書に沿ったモニタリングの作成を行ないカンファレンスで見直しや意見を反映させ情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の小さな変化や兆しを見逃さずに臨機応変な対応が出来るように情報の共有に取り組む、すべての職員が同じ対応が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は防災訓練の合同参加、クリーンデー、納涼祭等の行事を実施。喫茶店、ファミリーレストランの利用も行っており、地域の一員としての役割を担って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の状態を見て必要時には事業所、家族様に報告し主治医との連携しつつ適切な医療を受けられるように支援を行なっている。	協力医への受診送迎や往診時に情報共有し、健康管理を行っている。入居前のかかりつけ医受診は、原則家族送迎だが、情報提供を行い、健康管理に支障のないように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックを行い変化がある時は管理者に報告し、訪問看護の方と連携を行なっている。ケアについてのファイルを活用して情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に適切な情報を提供し、また病院からの情報も家族様や事業所に適切な情報提供を行なっている。可能な限り希望に沿うように病院と事業所、家族様との連携を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と施設長、管理者、ご家族様との話し合いを行い同意書を取りケアを行なっている。本人様が安楽に過ごすことが出来るように、またご家族様の相談や心理的ケアを行いつつ事業所全体がチームとなり支援を行なっている。	入居時に終末期の対応について説明し、状態に応じて主治医が病状説明や意向を確認している。ホームでの看取り経験もある。定期的に勉強会を行い理解を深めている。看取り後の葬儀で弔辞を読まれるなど、看取り後も家族、親族と丁寧に関わられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の勉強会、カンファレンス時に急変時の対応、事故発生時の対応を情報共有している。今回救急隊による講習を受けほとんどが資格証を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。訓練を実施する際には地域の住民の方に参加して頂き、万が一の事態に備え避難介助や見守り等の協力して頂けるような協力体制を築いている。消火訓練、車椅子を使用した訓練も行なっている。	昼夜の火災を想定し、地域住民、近所の障害者作業所とも連携し、消火器や車いす操作の実地訓練、情報交換を行っている。BCP(業務継続計画)勉強会、停電時の備蓄、コンセントの掃除等、日頃から対策している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の個々に応じた声掛けや支援を行なっている。入浴介助の際は羞恥心やプライバシーに配慮した介助に心掛けている。	普段から人格に配慮した言葉かけや、入浴時等は特に羞恥心を傷つけない配慮を行い、気になる対応があれば話合うようにしている。また、毎月振り返りの場で、対応や言葉遣いについて、話合う機会もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望や要求に耳を傾けられる限りの支援を行なっている。利用者様とコミュニケーションを図りその人の思いをくみ取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活に楽しみを持って日々を過ごして頂けるようにドライブや買い物、外食や行事等を多く取り入れて自宅での生活により近い環境で利用者様が自然に笑顔になって頂けるように支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設では同じになりがちな髪形も本人様に相談しながら似合う髪形にカットして頂いたり、洋服もお持ちの中より選んで頂いたり、また汚れた際には直ぐに更衣支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で利用者様の好みや嫌いな物を尋ねながら休日の昼食で献立に取り入れ一緒に作り食して頂いたり、利用者様の能力を見極めながら出来る片付けを行って頂いている。	食事は外注だが、ご飯、汁物、付け合せはホームで調理している。朝食はパン食も可能である。おやつと一緒に考えたり、配膳下膳や土筆の袴とり等、個々人に応じた役割を入居者が担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは業者と相談し十分に配慮して提供行なっている。食事の水分にプラスして食間には個々の嗜好に合わせた水分を提供し記録する事で全スタッフが把握できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に応じた口腔ケアの支援を行なっている。週1回歯科往診による口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づいて、定時のトイレ誘導を行なっている。また失禁や尿量に応じて時間帯の調節を行なっている。	尿量に応じて、トイレ誘導時間の調整をしている。紙パンツから布パンツに変わった方もいる。夜間帯は睡眠不足にならないように一人ひとりに応じた排泄介助を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に適した食事形態や食物繊維乳製品などを取り入れている。水分を取って頂きなるべく薬に頼らないように努めている。また水分補給の時間を多く取り種類を変えながら考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入浴して頂ける体制になっているが希望があればいつでも入浴して頂けるように支援している。排泄の失敗などあればその都度入浴を実施している。	週2回の入浴予定だが、失禁や希望があれば柔軟に対応している。浴槽にリフトがあり、恐怖心なく湯船につかる事ができる。入浴時はゆっくりと話を聞きニーズの把握に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーション、散歩等、お一人お一人に合った支援を行なっている。夜に空腹の訴えがあられる方にはちょっとした軽食提供し支援を行なっている。現在1名おられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者お一人お一人の服用薬の内容把握に努め、朝、昼、夜、寝る前に間違えなく服用されるように色分けし、複数の職員によるダブルチェックを行うことで誤薬防止を図っている。体調に変化があれば管理者、主治医との連携がスムーズに図れるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の残存能力を活用出来るような作業の選択、積極的に取り組んで頂けるように興味を持たれるものを取り入れて喜んで頂いている。希望される方には買い物、喫茶店を利用して頂けるように支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物やお花見やドライブ、公園でのおやつを召し上がって頂いたり、喫茶店を利用して頂けるように支援を行なっている。	普段の会話から一人ひとりの希望を把握し、花見や外食等ホームの行事に反映した計画を立てている。天気や気候を考慮しながら散歩をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物欲のある入居者様には買い物支援時に欲しい物を伺いながら買い物ができるように傍で支援を行なっている。領収書はコピーし保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人様の希望やご家族様の了解を得て双方の希望に添うよう対応している。手紙や年賀状は利用者様の能力に応じて作成や代筆にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	移動スペースには転倒防止対策として手すりを設置している。また共有の空間は毎日の掃除の他温度管理を行なっている。玄関や廊下には季節の花を飾りホールには季節の作品を作成し四季を感じて頂いている。	ホーム内は明るく、清潔感がある。玄関には生け花があり、リビングの柱は樹木に見立てた飾りが施され、季節ごとに飾りつけを変えるなど、リビングで季節を楽しめる工夫がなされている。温度や湿度も適切に管理されている。廊下の手すりは入居者が毎日掃除し、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状態や気持ちをくみ取りホール内のソファや椅子、テーブルを配置する事で時にはソファや椅子に並んで座られ談笑されたり、時には離れたソファでゆっくり過ごされたりと自由に過ごせるスペースを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に愛用されていた物品をご持参頂き使用して頂いたり、担当スタッフが居室の管理や装飾、ベッドの配置等本人様に居心地の良く過ごして頂けるように考え行なっている。	ベッドの位置は入居時に相談し、愛用の家具を持参できる。仏壇の持ち込みも可能である。家族の写真を貼るなど自由にレイアウトでき、馴染みのある環境づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の表記や手すりを設け安全に移動できるように配慮している。各居室までも手すりがあるため安心して自由に行き来して頂いている。		